

大項目	Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置							
中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(1) 自己収入拡大への取組							
【年度計画】								
機構全体において、展示事業等収入額について前中期目標の期間の実績の年度平均を上回ることを目指す。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課			事業責任者	事務局長 山下 登			
【実績・成果】								
展示事業等収入については、下表のとおり2,260,173千円となり、目標を上回った。								
		目標値		平成29年度				
展示事業等収入		1,538,510千円		2,260,173千円				
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。								
※受託研究・受託事業を除く。								
※還付消費税を含む金額。還付消費税を除くと2,095,202千円となる。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
自己収入額 (展示事業等収入)	2,260,173千円	1,538,510千円	A		1,240,226	1,730,218	1,817,119	1,714,563
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 来館者数が28年度実績より100万人近く増加したことに伴い、展示事業等収入も381,040千円（還付消費税を除く）増加し、目標を大幅に上回ることができた。						
【中期計画記載事項】								
展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 来館者数の増加により、目標を大幅に上回ることができた。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(2) 外部資金の獲得							
【年度計画】 機構全体において、寄附金等の外部資金獲得により財源の多様化を図る。								
担当部課	本部事務局財務課（取りまとめ） 東京国立博物館総務部経理課、京都国立博物館総務課、奈良国立博物館総務課、九州国立博物館総務課、東京文化財研究所研究支援推進部管理課、奈良文化財研究所研究支援推進部総務課				事業責任者	事務局長 山下 登		
【実績・成果】 寄附金については、下表のとおり 732,210 千円となり、目標値を上回った。								
		目標値	平成 29 年度					
寄附金		439,574 千円	732,210 千円					
※目標値は、前中期目標期間の実績の年度平均。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
寄附金等額 (その他寄附金等)	732,210千円	439,574千円	A		172,318	789,808	795,744	753,812
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。						
【中期計画記載事項】 展覧事業の集客力を高める工夫による来館者数の増加に努め、自己収入の確保を図るとともに、賛助会員等への加入者の増加に継続的に取り組み、寄附金の獲得を目指す。また、(中略)競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施しており、目標を大幅に上回ることができた。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務部総務課			事業責任者	課長 竹之内勝典			
【実績・成果】 (博物館4施設) ①年間2回、会員向けに「東大寺講演会」の開催をはじめ、主催、共催や後援による講演会を開催した。 ②ホームページや関係団体からの申し込み、学校訪問等の機会を通じて、講堂や茶室をはじめ各施設の利用促進を図った。 ③主に入館者の拡大と施設の有効利用を目的として、コンサートや寄席、野外シネマなど38件のイベントを実施し、約20,000人の参加があった。また、国際交流イベントとして「留学生の日」を実施し、無料観覧（総合文化展のみ）のほか、茶会、英語ガイド、ガイドツアーなどを行い1,622人が来場した。								
【補足事項】 ②企業等のパーティー、撮影(映画、ドラマ、雑誌等)、茶室・講堂の貸出による施設の有効利用を図った。 ・企業等のパーティーによるユニークベニューの収入は、14件43,077千円であった。 ・撮影による収入は、336件25,865千円であった。(28年度実績325件32,317千円) ・重要文化財「表慶館」は、展覧会の開催がない時期にユニークベニューとして活用し、大型イベントの誘致を行った。 ・27年7月より業務効率化と民間の接客対応を取り入れるため、撮影業務の外部委託を実施した。 ③新規来館者のうち、特に若年層の獲得を図るため、「博物館で野外シネマ」を昨年度に引き続き実施し、2,811人(2日間実施予定のうち雨天のため1日中止)の来場があった。新規来館者向けに、開館時間の延長や館内マップの作成など、博物館の魅力を伝える機会とした。また、「プレミアムフライデー」に併せて、夜間開館の活用を促すために、「プレミアムな! 東博寄席」(2回、385名)、「東博納涼怪談」(196名)、「トーハク BEER NIGHT!」(4回、4,580名)や「nukumori MOON LIVE」(2,087名)等のイベントを実施した。								
								
「博物館で野外シネマ」実施の様子				プレミアムフライデー「トーハク BEER NIGHT!」実施の様子				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
施設の有効利用件数	866件	-	-		676	664	652	747
うち有償利用件数	581件	-	-		393	402	434	529
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 開館時間以外の時間帯を活用した敷地内施設の利用促進によって、当館の認知度向上と外部資金の調達を図った。特に、夜間開館の拡充や訪日外国人の増加を受けて、アンケート調査等の結果を反映し、非日常的な体験を博物館で体験する野外シネマ、ビアガーデンやライブなどを開催した。施設の有効活用と新たな取り組みにより着実に新規来館者とリピーターの獲得を図っており、目的を達成することができた。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 当館のブランド戦略を考慮し、事案毎に適切な判断を行いながら、保有資産の外部への貸出を進めることができた。伝統ある博物館の施設や敷地内の空間を活かし、新たな魅力を発信する取り組みを自主企画や貸会場として行うなど、中期計画を順調に実施することができた。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課			事業責任者	課長 数馬厚人			
【実績・成果】 (博物館4施設) ①展覧会に関する講演会、土曜講座の他に、公益財団法人文楽協会と連携し、「解説と実演による文楽鑑賞入門」を開催した。 ②新たにロケーション撮影に関する制度を設けたほか、講堂等の利用案内(利用時間、料金等)を当館ホームページに掲載した。また、明治古都館の一部をイベント会場等として外部に貸し出すなど、保有資産の有効利用の推進を図った。 ③従前の「京都・らくご博物館」、の他に、留学生を対象に日本文化への理解を深めるため、「留学生の日」を設け、平成知新館名品ギャラリー無料観覧、明治古都館での書道パフォーマンスおよび庭園での書道体験を行った。								
【補足事項】 ①講座・講演会等 ・「解説と実演による文楽鑑賞入門」 場所：平成知新館講堂 参加人数：189人 文楽の太夫、三味線、人形の解説と体験(三味線は解説のみ)に続き、本館にもつながりのある五条橋を舞台とした「牛若丸 弁慶 五条橋」を実演した。 ②外部への会場提供 ・映像(テレビ、映画等)・商品カタログ等の撮影(平成知新館、庭園、茶室)、茶会の開催(茶室)、会議・講演会等の開催(講堂)、式典・パーティ等の開催(平成知新館グランドロビー、庭園)、企業の展示会イベント(明治古都館)。 ③コンサート等のイベント ・「京都・らくご博物館」 場所：平成知新館講堂 参加者数：430人 ・「留学生の日」 場所：平成知新館 参加者数：88人 ・書道パフォーマンス 場所：明治古都館 参加人数：200人 ・書道体験 場所：庭園 参加人数：300人								
								
文楽入門鑑賞		企業のイベントに施設貸出(明治古都館)			書道パフォーマンス			
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
施設の有効利用件数	122件	-	-		28	63	112	105
うち有償利用件数	86件	-	-		25	57	104	93
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ロケーション撮影に関する新制度を設けたほか、講堂等の利用案内について、当館ホームページへの掲載を行い、外部に対して積極的に広報を行った。30年度以降は、新たな活用方法の検討、外部との連携等を試みたい。 入館者拡大のために、無関心層を取り込むための新たなイベントを試みた。今年度は特に、参加者体験型および展覧会に関連したイベント内容を意識して、企画を検討した。 件数についても、過去4年間の平均を上回っており、計画通りに有効活用を推進することができた。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイトでの周知等の新たな広報手段の活用や規則の整備に取り組むとともに、入館者数拡大のための新規イベントを企画し、本来業務に支障のない範囲で実施した。その結果、中期計画通りに順調に成果を上げている。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	総務課							
事業責任者	課長 室溪浩							
【実績・成果】 (博物館4施設) ①公開講座、サンデートーク、正倉院展ボランティア解説、特別鑑賞会、文化財保存修理所特別公開等を開催した。 ②小学生を対象に世界遺産学習を実施した。 ③地元自治体等と連携し、入館者の拡大を目的とした各種イベントを実施した。								
【補足事項】 ①講座・講演会 公開講座(13回)、サンデートーク(12回)、正倉院展ボランティア解説(97回)、特別鑑賞会(9回)、文化財保存修理所特別公開(1回)等 ②世界遺産学習(27校) ③イベントの実施 ・講堂：「親子で学ぼう博物館」、親子講座「エンマさまと地獄めぐり」、第69回正倉院展親子鑑賞会、文化財保存修理所特別公開、「笑い飯哲夫のおもしろ仏教講座」、『お水取り「講話」と「粥」の会』、お水取り展鑑賞とお松明 ・地下回廊：親子のワークショップ「着て楽しむ！ほとけさまのファッション」、特別展「快慶」関連イベント「截金技法の体験をしてみよう！」、特別展「源信」関連イベント「つくってわかる！立体地獄絵」、奈良トライアングルミュージアムワークショップ「写仏散華づくり」、「第2回ボランティア・フェスタ」 ・仏教美術資料研究センター：「正倉院展特別セミナー」、Daiwa Sakura Aid Presents「冬の桜」、「仏教美術資料研究センター公開」 ・庭園・茶室：庭園散策ツアー(2回)、「コンサート音燈華 ジュスカ・グランペール」、「おん祭と春日信仰の美術」茶会 ○会場提供 ・講堂：講演会「奈良の仏」、講義「天才仏師 快慶」、多摩美術大学講義、講義「美術館めぐり」、鹿愛護会による講演、なら国際映画祭 ・仏教美術資料研究センター：テレビ番組「今夜も生でさだまさし」の収録、重要文化財指定建造物の現地研修 ・庭園：正倉院展「野点のお茶席」 ・茶室：茶会 ・敷地内：なら燈花会、ライトアッププロムナード・なら2017、奈良県柿の日消費拡大イベント、春日若宮おん祭執行に係る敷地提供、なら瑠璃絵等								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
施設の有効利用件数	111件	-	-		144	117	117	113
うち有償利用件数	19件	-	-		43	34	33	21
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 講堂では、公開講座、サンデートーク、親子向けの鑑賞会等を積極的に実施した。また、なら国際映画祭やなら瑠璃絵に対して会場提供を行う等、博物館の認知の向上及び、施設の有効活用ができた。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 コンサート会場として施設を提供したり、地元自治体等と連携してイベントを実施したりすることで博物館の認知を向上させることができている。計画通り順調に施設を有効利用し成果をあげている。今後は、旅行会社や観光団体との連携を強化し、更なる施設の利用促進を図る。						



講演会「奈良の仏」

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (博物館4施設) ①講座・講演会等を開催する。 ②講堂等の利用案内を関係団体、学校等外部に対し積極的に行う。 ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。								
担当部課	交流課 総務課		事業責任者	課長 吉川利幸 課長 菅原秀倫				
【実績・成果】 (博物館4施設) ①特別展及び特別展示等に関する講演会・講座等を開催した。 ②ミュージアムホール及び茶室、研修室等の外部団体への貸出を積極的に行った。 ③落語家による「みゅーじあむ寄席」の開催や、ミュージアムコンサート等を行い、施設の有効利用を図った。								
【補足事項】 ①展示関連の講演会等の開催 1)特別展及び文化交流展（特別展示）関連イベント ・特別展「世界遺産 ラスコー展」関連講演会「クロマニヨン人はどこから来たのか？」 (7月11日開催 参加者数：259人) ・特別展示「水の中からよみがえる歴史」関連シンポジウム「水中文化遺産の多様性 ― 縄文から龍馬まで ―」 (8月26日開催 参加者数：50人) ②外部団体への施設の貸出 ・6月24日 全国邪馬台国連絡協議会 第6回九州大会（全国邪馬台国連絡協議会九州支部） ・7月 8日 秋園美緒コンサート（筑紫言の葉舎主催） ・11月25日 第50回NPO法人日本口腔科学会九州地方部会（第50回NPO法人日本口腔科学会九州地方部会主催） ③国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートの開催 ・プレミアムフライデーライブ「里地帰〜二胡の夕べ〜」(5月26日 参加者数：120人) ・みゅーじあむ寄席「ようこそ九博地獄めぐりへ」(8月12日 参加者数：240人)				 特別展示「水の中からよみがえる歴史」関連シンポジウムの様子				
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
施設の有効利用件数	280件	-	-		269	321	392	355
うち有償利用件数	96件	-	-		122	120	118	116
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 会議室の貸与及び展示・講演会のためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を行った。施設の利用件数については、29年度から小・中学生を対象とした学校教育活動支援事業を本格的に開始したことにより、研修室やミュージアムホールの貸出し日数が減ったため、28年度に比べて減少した。30年度以降も29年度と同様の状況になることが予想されるが、効率的なスケジュール管理を行い、施設の有効利用に努める。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 中期計画に沿って、28年度に引き続き会議室の貸与及び展示・講演会のためのミュージアムホールの貸与など、有効利用の推進を図った。29年度から開始した学校教育活動支援事業により施設の貸与件数が減少したものの、新規来館者開拓策として開始した当該事業が、当館に対する親近感とリピーターの増となるよう、今後当該事業を充実させていくことにより収入増を図る。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組							
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進							
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。								
担当部課	研究支援推進部	事業責任者	部長 外間尹隆					
【実績・成果】 (文化財研究所2施設) ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを29年度も開催した。この事業は台東区との連携事業として毎年開催されている「上野の山文化ゾーンフェスティバル」に東京文化財研究所のオープンレクチャーを同事業の講演会シリーズとして実施している。また、本事業はbeyond2020プログラムとして認証を受け実施することができた。 ・当研究所の本来業務に支障のない範囲で外部機関へ施設の有償貸付を実施した。								
【補足事項】 ・第51回オープンレクチャー「かたちからの道、かたちへの道」								
								
オープンレクチャーの様子								
・有償貸付例：「第7回文化財 I P M コーディネータ資格取得講習会」（12月6日～8日 公益財団法人文化財虫菌害研究所）								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28
施設の有効利用件数	200件	-	-		177	164	186	185
うち有償利用件数	10件	-	-		23	12	7	9
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 施設の有効利用の促進を図るべく、当研究所の会議室及びセミナー室の有償貸付を実施した。例年開催しているオープンレクチャーについては、beyond2020プログラムとして認証を受けて実施することができるなど、施設利用の拡大を図ることができた。なお、外部機関への有償貸付は10件実施した。						
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 今中期計画期間2年目である29年度は、beyond2020プログラムとして認証を受ける事業を実施することができた。30年度も同様に、当研究所の会議室及びセミナー室の有効利用を図る予定である。						

中項目	1. 自己収入拡大への取組																									
事業名	(3) 保有資産の有効利用の推進																									
【年度計画】 (文化財研究所2施設) セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を引き続き図る。																										
担当部課	研究支援推進部研究支援課			事業責任者	課長 伴佳英																					
【実績・成果】 (文化財研究所2施設) 当研究所ウェブサイト講堂等の一時使用について、掲載し、広く周知して、利用者の獲得を図った。																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th><th colspan="2">29年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館 講堂</td><td>137件</td><td>(内 有償貸与 7件)</td></tr> <tr> <td>平城宮跡資料館 小講堂</td><td>136件</td><td>(内 有償貸与 11件)</td></tr> <tr> <td>飛鳥資料館 講堂</td><td>54件</td><td>(内 有償貸与 0件)</td></tr> <tr> <td>その他(仮庁舎・収蔵庫等)</td><td>20件</td><td>(内 有償貸与 17件)</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>347件</td><td>(内 有償貸与 35件)</td></tr> </tbody> </table>									施設名	29年度		平城宮跡資料館 講堂	137件	(内 有償貸与 7件)	平城宮跡資料館 小講堂	136件	(内 有償貸与 11件)	飛鳥資料館 講堂	54件	(内 有償貸与 0件)	その他(仮庁舎・収蔵庫等)	20件	(内 有償貸与 17件)	合 計	347件	(内 有償貸与 35件)
施設名	29年度																									
平城宮跡資料館 講堂	137件	(内 有償貸与 7件)																								
平城宮跡資料館 小講堂	136件	(内 有償貸与 11件)																								
飛鳥資料館 講堂	54件	(内 有償貸与 0件)																								
その他(仮庁舎・収蔵庫等)	20件	(内 有償貸与 17件)																								
合 計	347件	(内 有償貸与 35件)																								
【補足事項】 28年度実績																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th><th colspan="2">28年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館 講堂</td><td>129件</td><td>(内 有償貸与 17件)</td></tr> <tr> <td>平城宮跡資料館 小講堂</td><td>130件</td><td>(内 有償貸与 22件)</td></tr> <tr> <td>飛鳥資料館 講堂</td><td>21件</td><td>(内 有償貸与 0件)</td></tr> <tr> <td>その他(仮庁舎・収蔵庫等)</td><td>16件</td><td>(内 有償貸与 13件)</td></tr> <tr> <td>合 計</td><td>296件</td><td>(内 有償貸与 52件)</td></tr> </tbody> </table>									施設名	28年度		平城宮跡資料館 講堂	129件	(内 有償貸与 17件)	平城宮跡資料館 小講堂	130件	(内 有償貸与 22件)	飛鳥資料館 講堂	21件	(内 有償貸与 0件)	その他(仮庁舎・収蔵庫等)	16件	(内 有償貸与 13件)	合 計	296件	(内 有償貸与 52件)
施設名	28年度																									
平城宮跡資料館 講堂	129件	(内 有償貸与 17件)																								
平城宮跡資料館 小講堂	130件	(内 有償貸与 22件)																								
飛鳥資料館 講堂	21件	(内 有償貸与 0件)																								
その他(仮庁舎・収蔵庫等)	16件	(内 有償貸与 13件)																								
合 計	296件	(内 有償貸与 52件)																								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年 変化	25	26	27	28																		
施設の有効利用件数	347件	-	-		1,142	286	256	296																		
うち有償利用件数	35件	-	-		37	26	43	52																		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ・県が行うイベント開催と研究集会等の日程が重なること等が原因で利用件数が減少したが、施設の貸与を積極的に実施し、自己収入の獲得に貢献した。 ・30年度以降についても、現状の分析及び利用者のニーズ等、その結果をもとに、施設の有効利用の推進を本来業務に支障の無い範囲で実施する。																								
【中期計画記載事項】 (略) 保有資産については、その必要性や規模の適切性についての検証を適切に行うとともに、映画等のロケーションのための建物等の利用や会議・セミナーのための会議室の貸与等を本来業務に支障のない範囲で実施するなどの施設の有効利用の推進、競争的資金の獲得等財源の多様化を図り、機構全体として積極的に自己収入の増加に向けた取組を進めることにより、前中期目標の期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。																										
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 ・29年度も引き続き、一般利用申し出に対する有効利用の推進等を行い、自己収入の増加を図った。今中期計画においても、本来業務に支障の無い範囲で実施しながら、前中期目標期間の実績以上の自己収入を得ることを目指す。																								

【書式A】

施設名

本部事務局

処理番号

8300

中項目	3. 決算情報・セグメント情報の充実等							
事業名	決算情報・セグメント情報の充実等							
【年度計画】								
独立行政法人会計基準等を踏まえ、決算情報セグメント情報の充実を図る。								
担当部課	本部事務局財務課			事業責任者	課長 香取 雄太			
【実績・成果】								
前年度に引き続き、28年度決算（29年度実施）についても、「独立行政法人会計基準」（27年1月改訂）に従い以下の通り公表情報の充実を図った。								
・財務諸表附属明細書「セグメント情報」については、「臨時損失等」「行政サービス実施コスト」欄を設け、公表情報を充実化している。								
・決算報告書については、機構全体の決算報告に加えてセグメント（事業区分）毎の情報を公表した。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	29年度実績	目標値	評価	経年変化	25	26	27	28
－	－	－	－	－	－	－	－	－
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。						
【中期計画記載事項】								
機構の財務内容等の一層の透明性を確保し、活動内容を政府・国民に対して分かりやすく示し、理解促進を図る観点から、事業のまとまりごとに決算情報・セグメント情報の公表の充実等を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 計画どおり取組を実施している。						